

2013 年度前期 工学部画像科学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1T001001	画像科学セミナー	1 年前期水曜 2 限	立田 光廣他	T1T 1
T1T006001	プログラムの設計と実現 I	2 年前期木曜 2 限	堀内 靖雄	T1T 2
T1T007001	画像科学実験 I	2 年前期木曜 3,4,5 限 後半	小林 範久他	T1T 3
T1T008001	フーリエ変換と画像	2 年前期火曜 2 限	堀内 隆彦	T1T 4
T1T008002	フーリエ変換と画像	2 年前期火曜 3 限	堀内 隆彦	T1T 5
T1T011001	画像作り実習	2 年前期木曜 3,4,5 限 前半	小林 範久他	T1T 6
T1T025001	パターン認識基礎	3 年前期金曜 2 限	津村 徳道	T1T 7
T1T026001	ヒューマンインタフェース	3 年前期火曜 2 限	黒岩 眞吾	T1T 8
T1T033001	光機能材料	3 年前期月曜 4 限	高原 茂	T1T 9
T1T060001	画像物理化学 I	2 年前期金曜 2 限	柴 史之	T1T 10

授業科目名	: 画像科学セミナー
担当教員	: 立田 光廣, 高原 茂
年次・開講時限	: 1 年前期水曜 2 限
授業コード	: T1T001001
授業アンケート	: 回答者数 43 人 / 受講者数 48 人 (回収率 90%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q1. この講義のシラバスについて、該当するものを全て選択して下さい。(回答 43 件)

本科目は新入学生が大学生活を始めるに当たっての導入授業であり、毎年 1 年次担任が内容を企画し、進行をとりまとめています。半数近くの学生から「わかりやすかった」との評価を得て、安心しました。

Q29. この授業で良かった点について記入してください。(回答 7 件)

研究室訪問は例年人気のあるイベントですが、本年は次項 2 に記述するような特殊事情があり、拡充が困難でした。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 8 件)

次項 2 に記述したように、e-Learning の運用状況が安定すれば、適切な時間配分に修正が可能だと思います。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

(1) 従来本科目は、安全教育、研究室訪問、物理・化学演習を柱とした、大学生生活導入科目としていましたが、昨年度よりキャリア教育を導入し、本年度は更にグローバル人材教育に重点をおくことになりました。

(2) 特にグローバル人材教育については、今年度より e-Learning を導入した工学国際英語 I A、I B を必修科目としました。これらをスムーズに導入するため、私と高原茂先生の 2 名の学年担任により、本授業の構成を大幅に変更しました。

(3) 具体的には、全 15 回の授業のうち、最初の 3 回を英語学習アドバイザーの協力を得て、e-Learning の取り組み方の説明、実習にあて、入り口でつまづくことのない様に配慮しました。これに続く 4 回には国際教育センター長やアジア学生ワークショップ参加学生らを招いて、国際化と英会話学習の意義、留学のすすめなどとともに、キャリア形成の動機付けの機会としました。

3. その他のコメントや連絡事項

(1) 新 1 年次学年担任の内示が 2 月末近くであったため、準備期間が十分とはいえなかった。新 1 年次学年担任の決定時期を早めるべきだと思います。

(2) 本件に関して諸方面の方々の協力が得られたことに大変感謝いたします。

(3) ガイダンス欠席者への対応はことその他気を使いました。ガイダンスに必ず出席すべき旨の伝達を、入学手続きの際に更に徹底していただきたいと思います。

作成(者): 立田光廣

授業科目名	: プログラムの設計と実現 I
担当教員	: 堀内 靖雄
年次・開講時限	: 2 年前期木曜 2 限
授業コード	: T1T006001
授業アンケート	: 回答者数 1 人 / 受講者数 2 人 (回収率 50%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 1 件)

アンケート回答数は 1 件であったが、同時開講の情報画像学科科目と類似した回答結果であったため、そちらの回答をもって、本講義の回答としたい。アンケート結果は学科平均を大きく上回り、学生の満足度は高かったと言える。自由記述欄からは演習の難易度が適切であったという意見もあったが、簡単すぎて、ほとんど役に立たないという意見もいくつか寄せられた。ほとんどの学生が授業時間内に終わられるように配慮した演習課題であるが、学生の実力向上のことも考慮し、難易度については来年度の検討課題としたい。ただし、高度な演習は「プログラム演習」に委ねることとなる。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか？ (回答 1 件)

アンケート回答数は 1 件であったが、同時開講の情報画像学科科目と類似した回答結果であったため、そちらの回答をもって、本講義の回答としたい。アンケート結果は学科平均を大きく上回り、理解度は高かったと言える。ただし、C 言語の学習としては入門～初中級レベルにとどまっておろ、高学年になって、もう少し高度な技術レベルまで学べるようなカリキュラム編成を今後、検討していきたいと考えている。

Q5. 板書，OHP，スライドなどは、見やすかったですか？ (回答 1 件)

アンケート回答数は 1 件であり、良い評価を受けていたが、同時開講の情報画像学科科目での意見を尊重し、そちらの回答をもって、本講義の回答としたい。情報画像学科のアンケート結果は学科平均を下回る結果となった。自由記述より、ペンタブレットによる直筆の文字や図が読みにくかったようである。ペンタブレットを使って、スライド上に記入するのではなく、ホワイトボード等に記述して補足する方が読みやすくてできるが、講義室設備と受講人数の関係から、現状では困難であるため、読みやすくなる直筆メモの呈示方法を今後、検討したい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

講義時間内で理解できるような内容としており、アンケート結果の理解度も高かったが、3. のコメントで示すように、テストの成績が芳しくない学生もいた。演習が簡単だったこともあり、不十分な理解のまま、講義を終えてしまった可能性が考えられる。プログラミングが苦手な学生の理解度のベースアップの方法を検討したい。

3. その他のコメントや連絡事項

受講者が 2 名であったため、同時開講の情報画像学科の学生と合わせて記述する。期末テストの内容を見ると、100 点 4 名、90～99 点 14 名、80～89 点 17 名と半数程度はおおむね理解していたと言えるが、69 点以下の学生も 36 名おり、プログラミングの実力が不十分と考えられる学生もいた。テストがあまりできなかったと思う学生諸君は自分で復習や演習をして、実力を身につけて欲しい。プログラミングは情報系学科の必須能力となる。

作成 (者): 堀内靖雄

授業科目名	: 画像科学実験 I
担当教員	: 小林 範久, 大川 祐輔
年次・開講時限	: 2 年前期木曜 3,4,5 限後半
授業コード	: T1T007001
授業アンケート	: 回答者数 37 人 / 受講者数 49 人 (回収率 76%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 34 件)

アンケートを通して 5 と 4 の回答が多い設問が大半を占める中、この設問のみ 29% が 3 「どちらともいえない」という回答である点が目立った (60% 以上が 4 または 5 を選択してはいる)。

満足度が (相対的に) 低い理由は明確ではないが、他の項目の回答からすると実験およびレポートが量的にもそれなりにハードであったことに対してネガティブな感想が出ている可能性があると考えたが、どうだろうか。

紙の上の勉強だけでなく、実際に操作を行い、過程や結果をきちんと記録し、それを解析、考察するのは極めて重要であり、一見簡単そうな実験でも実際に行うと予想外の困難が発生することを実感することも重要な勉強である。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか？ (回答 28 件)

4 割近くが 4 時間以上をかけたとする一方、1 時間未満が 2 割以上いるというのは困ったものである。時間さえかければよいというものではないが、事前の調査が不十分であれば、当然、安全で効率的な作業が行えない可能性が増える。また、得られた結果を解析し、まとめるのにも相応の時間が必要なはずである。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

実施側の準備や体制等に対する評価は概ね高く、その点は一安心である。

一方でレポート等の達成度は、こちらの期待するところにあと一步というところである。ただし、学生側にその自覚があるのかないのかは、アンケートからは読み取れない。

毎回のレポート作成に 4 時間以上の時間をかけたとする回答が 6 割あり、努力していること学生が多いこと自体は喜ばしい。

3. その他のコメントや連絡事項

不明点を質問する等の積極性をもっとあれば、理解度やレポートの完成度等もさらに上がると思われる。もちろん、まず自分で十分に調べ、考えた上でないと、単に答を聞きに来ただけになってしまい、身にならないことはいうまでもない。

作成 (者): 大川

授業科目名	: フーリエ変換と画像
担当教員	: 堀内 隆彦
年次・開講時限	: 2 年前期火曜 2 限
授業コード	: T1T008001
授業アンケート	: 回答者数 18 人 / 受講者数 26 人 (回収率 69%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 17 件)

この講義のアンケート結果は、情報画像 2 コマ、3 コマ、画像科学 2 コマ、3 コマを受講した 4 グループ別に集計されるが、私がつけた成績の GPA とこの評価結果の数字の相関が 0.96 であった。つまり、学生の理解率と成績が見事に一致した結果となっている。理解できれば、成績もあがるという講義であると解釈できる。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 16 件)

この講義のアンケート結果は、情報画像 2 コマ、3 コマ、画像科学 2 コマ、3 コマを受講した 4 グループ別に集計されるが、私がつけた成績の GPA とこの評価結果の数字の相関が 0.92 であった。つまり、学生の満足度と成績が見事に一致した結果となっている。また、Q15 と Q16 の相関は実に 0.99 である。結論として、理解できれば満足でき、成績もあがるという講義であると解釈できる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

毎回の演習および期末試験では、最終回答の正誤だけでなく、理解度を評価している。理解せずに他人の答案をコピー & ペーストしているのか、理解して回答しているのかは、説明の文章一字一句に現れる。授業時間中に内容を理解できるように、集中して取り組んでほしい。

3. その他のコメントや連絡事項

画像工学の立場から、フーリエ変換の理論と応用を丁寧に記述した教科書がないため、講義ではテキストを指定していない。授業では板書によって、数式の展開を一つひとつ丁寧に追いながら進めることによって、講義が終わるときには、自分のノートがテキストとなるように心がけている。また、印刷された教科書や資料をただ眺めるだけではなく、自らがノートを自発的に取りながら内容を追うことによって、より理解が深まることを狙っている。本科目は、数学の授業という位置づけではないため、単に数式上で理論を学ぶのではなく、数式と概念が結びつくことを重視している。毎回の講義の最後では、その週に学んだ内容に対して演習を行い、その結果に基づいて、翌週補足説明を行っている。

作成 (者): 堀内 隆彦

授業科目名	: フーリエ変換と画像
担当教員	: 堀内 隆彦
年次・開講時限	: 2年前期火曜 3 限
授業コード	: T1T008002
授業アンケート	: 回答者数 25 人 / 受講者数 35 人 (回収率 71%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 20 件)

この講義のアンケート結果は、情報画像 2 コマ、3 コマ、画像科学 2 コマ、3 コマを受講した 4 グループ別に集計されるが、私がつけた成績の GPA とこの評価結果の数字の相関が 0.96 であった。つまり、学生の理解率と成績が見事に一致した結果となっている。理解できれば、成績もあがるという講義であると解釈できる。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 20 件)

この講義のアンケート結果は、情報画像 2 コマ、3 コマ、画像科学 2 コマ、3 コマを受講した 4 グループ別に集計されるが、私がつけた成績の GPA とこの評価結果の数字の相関が 0.92 であった。つまり、学生の満足度と成績が見事に一致した結果となっている。また、Q15 と Q16 の相関は実に 0.99 である。結論として、理解できれば満足でき、成績もあがるという講義であると解釈できる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

毎回の演習および期末試験では、最終回答の正誤だけでなく、理解度を評価している。理解せずに他人の答案をコピー & ペーストしているのか、理解して回答しているのかは、説明の文章一字一句に現れる。授業時間中に内容を理解できるように、集中して取り組んでほしい。

3. その他のコメントや連絡事項

画像工学の立場から、フーリエ変換の理論と応用を丁寧に記述した教科書がないため、講義ではテキストを指定していない。授業では板書によって、数式の展開を一つひとつ丁寧に追いながら進めることによって、講義が終わるときには、自分のノートがテキストとなるように心がけている。また、印刷された教科書や資料をただ眺めるだけではなく、自らがノートを自発的に取りながら内容を追うことによって、より理解が深まることを狙っている。本科目は、数学の授業という位置づけではないため、単に数式上で理論を学ぶのではなく、数式と概念が結びつくことを重視している。毎回の講義の最後では、その週に学んだ内容に対して演習を行い、その結果に基づいて、翌週補足説明を行っている。

作成(者): 堀内 隆彦

授業科目名	: 画像作り実習
担当教員	: 小林 範久, 大川 祐輔
年次・開講時限	: 2年前期木曜 3,4,5 限前半
授業コード	: T1T011001
授業アンケート	: 回答者数 34 人 / 受講者数 49 人 (回収率 69%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 27 件)

動機付け科目であり、導入的にさまざまな画像システムを扱う実習であるため、意味もわかりやすいためか、満足度は高い。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

この実習は高度な考察をあまり要求せず、まずは体験して興味を深めることを主眼に置いている。その方向性は概ね成功しているように思われる。

3. その他のコメントや連絡事項

この実習の後の画像科学実験 I~IV は、定量的なデータを取り、それを科学的に考察することが求められ、作業にしても、考察等にしても、ずっとハードなものになっている。また、講義科目も基礎科学的な点を積み上げていくものが多い。

この実習で体験したさまざまなシステムは、このような科学的な基盤があって始めて実現するものであるから、さまざまな要素がどのように関連して、このようなシステムができあがっていったのか、折に触れて思い出して欲しい。

作成(者): 大川

授業科目名	: パターン認識基礎
担当教員	: 津村 徳道
年次・開講時限	: 3 年前期金曜 2 限
授業コード	: T1T025001
授業アンケート	: 回答者数 30 人 / 受講者数 49 人 (回収率 61%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q10. 授業では宿題, レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 28 件)

学生の進度をみるためにも中間テストを検討してみたい.

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 29 件)

適度な課題を検討したい.

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 28 件)

インタラクティブな授業を心がけたい.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

毎年好評であるように, 毎回の授業の前に前回までも復習を引き続き丁寧に行いたいと思います.

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 津村

授業科目名	: ヒューマンインタフェース
担当教員	: 黒岩 眞吾
年次・開講時限	: 3 年前期火曜 2 限
授業コード	: T1T026001
授業アンケート	: 回答者数 9 人 / 受講者数 18 人 (回収率 50%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 9 件)

平均 4.89 とかなり高い数値です。受講生全員が 2 回のプレゼンテーションを行う等、インタラクティブな内容が多く、大学らしい講義と受け止められており、学ぶ意欲の高い学生さんには好評のようです。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか？ (回答 9 件)

平均 4.44 とかなり高い数値です。認知科学的な要素の強い講義内容であるため、コミュニケーション能力の高い学生さんには理解しやすい内容のようです。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか？ (回答 9 件)

プレゼンテーションがあるため通常の授業より予習時間が増えるように想像する学生さんが多いようですが、実際は、通常講義での予習が必要無い為、平均値は通常講義と同程度です。ただ、予習時間が短い学生さんから長い学生さんまで万遍なく分布しており、それが、プレゼンテーション内容の充実度に影響しているようでもあります。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

プレゼンテーションを 2 回、加えて期末試験もあるという講義で敬遠する学生さんが多いようですが、受講した学生さんの満足度は非常に高い内容です。学生さんの発表は斬新なアイデアが多く非常に面白い内容で、質問も飛び交いかなり活気のある授業になっています。また、他の人の発表を評価するというのが、自分の発表の大きな改善につながっているようです。

3. その他のコメントや連絡事項

単位をそろえることを目的として受講する学生さんにはお勧めできませんが、人に役立つことがしたいと考えている学生さんにはお勧めの講義です。2013 年度は情報画像学科よりも画像科学科からの受講者が多数を占めました。

作成 (者): 黒岩眞吾

授業科目名	: 光機能材料
担当教員	: 高原 茂
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 4 限
授業コード	: T1T033001
授業アンケート	: 回答者数 38 人 / 受講者数 62 人 (回収率 61%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか？ (回答 37 件)

Moodle 上に教材や小テストなどを掲載しており、これらが Q2 や関連する項目の回答から役立っていることがわかり、安心しています。

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか？ (回答 37 件)

声や話し方については例年 Q3 で指摘され、マイクも毎回使って気にしているのですが、まだまだのようです。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 37 件)

満足度 Q16 は重要な設問ですが、光機能材料の分野をあまり将来の興味としてとらえてくれないようです。技術的な背景や産業上の利用についても丁寧な説明があったほうがよかったです。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本年度は、他の新設科目と一部重複するところが出てきたため、授業内容を少し絞りました。概ね量的には適当だったようですがすっきり説明できなかったようです。学生実験とも相関がある授業となっていて相乗効果はあるようです。そのためか前の席の学生しか見えないサンプルなどは不評のようです。ジャブロンスキーダイヤグラムなど初歩的なこともきちんと理解して有機光反応を理解してもらいたい、いくつかの基礎的な光有機化学反応は使える知識としてもってもらいたいのですが、有機化学にあまりなじんでない学生も見られ、1 - 2 年で学ぶ化学系科目の内容をもう少し理解しておいてほしいところです。

3. その他のコメントや連絡事項

3 年からは専門科目の履修も増え、将来の目標などをよく見据えて授業に取り組んでほしいところです。この科目を基に「先端技術に広がる有機光化学」を出版しました。次年度からこの科目は「光反応化学」となりますが、光反応材料としての応用もこのテキストで踏まえながら、演習的な要素を増やして、反応化学について学ぶ講義になります。

作成 (者): 高原 茂

授業科目名	: 画像物理化学 I
担当教員	: 柴 史之
年次・開講時限	: 2 年前期金曜 2 限
授業コード	: T1T060001
授業アンケート	: 回答者数 34 人 / 受講者数 49 人 (回収率 69%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 28 件)

板書の読みやすさ・速さ(消すタイミング)については, 改善いたします。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

今年度新規開講科目であったが, アンケートの結果を見る限り, 範囲・進行の速さについては, 妥当~若干多い(速い)ものであったと思われる。次年度は, 扱う内容を再度見直す等して, より確実な内容理解につながるようにしたい。

ほぼ毎回, 教科書に掲載されている問題から宿題を課した。授業外学習時間の結果から, 解答に概ね 1 時間程度を要したようであり, 分量としては妥当であったと思われる。

3. その他のコメントや連絡事項

今後も, 化学事象を(も)数式をもとにして定量的にとらえることの重要性を意識し続けてください。

作成(者): 柴 史之